

気候変動による食料品価格の上昇は、自動車の買い替えサイクルを伸ばす

1. 家計の可処分所得が減少

- 食料品は生活必需品なので、価格が上がるとまず食費に優先的にお金を回す必要があります。
- 家計に占める食費の割合(エンゲル係数)が上昇し、自動車購入に回せる資金が減少します。
- 結果として「まだ乗れるから買い替えを延ばす」という判断が増えます。

2. 景気全体への波及

- 食料品の値上げは輸送コストや製造コストの上昇と連動し、他の生活必需品や光熱費も上昇しやすくなります。
- 消費者心理が「節約モード」になり、大きな買い物を控える傾向が強まります。
- 新車市場だけでなく、中古車市場でも買い替え需要が減少します。

3. 自動車価格自体も上昇する可能性

- 気候変動が原材料価格(鉄鉱石、アルミ、ゴムなど)や物流コストを押し上げ、自動車本体価格も上昇。
- 燃費規制や電動化対応コストも加わり、従来以上に「長く乗る」ことが合理的になります。

💡 過去の事例

- 1970年代のオイルショック時、生活コスト上昇と経済停滞で買い替えサイクルが伸びた。
- 2008年のリーマンショックや2022年のインフレ局面でも、平均保有年数は伸びています(米国では12年超、日本では約9年)。